

大崎市民病院医療事故の公表について（包括的公表）

令和４年 ４月 １日～令和４年 ９月３０日に発生した医療事故は次のとおりです。

レベル３ｂまたは４ａに該当する件数

３ ｂ	濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインの高度変化，入院日数の延期，外来患者に入院，手術，骨折）	２ 件
４ ａ	永続的な障害や後遺症が残ったが，有意な機能障害や美容上の問題を伴わない	０ 件

このうち，他の医療機関の事故防止につながると考える事例を，下記のとおり掲載します。

No.	概要	原因	改善・対応策
１	午後の退院予定患者が，朝から私服へ更衣し会計を催促する様子あった。午後退院であるため病室で待つよう説明したが，病室よりいなくなっていた。 病院外の歩道に倒れている患者を発見し，救急外来にて診察となった。	・ルネスタ内服あり，せん妄ハイリスク患者だった。 ・朝の落ち着かない言動（昼食は不要である等）や行動（午後退院であるが，朝から着替えている）により，せん妄は予測された。 ・発熱により意識混濁し，ふらつき，転倒した可能性がある。 ・退院の患者に対して，もう大丈夫という安心感から看護師のアセスメント不足が考えられる。	・午後退院の患者が私服に着替え，家族の迎えを待てないような言動，行動が見られるときはリーダー・スタッフ・クラークと情報共有し（服装や外見），スタッフ全員で注視する。 ・荷物を持ち退院する様子がある患者や私服で廊下歩行している患者に「退院ですか？」「IDバンドきりました？」等，声をかける。また受けもち看護師に退院可能か確認の徹底をする。 ・ID バンドを切らないことが良かった（発見されてから病棟の患者とすぐにわかり早急に対応できたこと）。今後も退院の最終確認時に，ID バンドをきるよう再周知する。